

幼児期における歌唱表現についての一考察

大森 由美子  
四條畷学園短期大学

A study of singing expression in childhood

Yumiko Omori  
Shijonawate Gakuen Junior College

四條畷学園短期大学紀要 第50号 別刷  
平成29年12月25日



## 幼児期における歌唱表現についての一考察

大森 由美子\*

A study of singing expression in childhood

Yumiko Omori

**Key words:** 歌唱指導、幼児の歌声、幼児の発声、詩の解釈と表現

文部科学省が定める幼稚園教育要領には幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などをねらいとし、それを達成するために指導する事項を内容として定めている。これらは幼児の発達の側面から「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」として大別されており、特に音楽教育の現場では”感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする”ことを、歌唱指導を通じて実現することを目指している。

一方で現在、幼稚園や保育園では音楽的要素をねらいとした指導をしなくても、音楽の楽しさを感じさせるだけでよいのではないかという風潮がある。その原因として、幼稚園教育要領では音楽が「表現」として大きく捉えられており、具体的に音楽をどのように指導していくのが記述されていないことが考えられる。幼児教育における音楽を通しての表現活動は、楽しい遊びを通して得られる音楽的能力の育成は勿論のこと、集中力・直感力・記憶力を養い、音楽の持つ美しいメロディーや詩を心で、身体で感じ取る感性を育てなければならぬ。

ここでは、幼稚園における幼児の歌唱指導の際に留意すべき幼児の歌声について調べ、指導について考察した。四條畷学園大学附属幼稚園（以下、本園）の歌唱指導における取組みがひとつの示唆となることを期待したい。

音楽教育において歌唱は必要不可欠であるが、現在の幼児教育では最も大きな問題を抱えている要素の一つである。歌唱は音楽活動を行う上で基礎を成すものであり、幼児期の歌唱教育はその後の発達を見据えた上で特に重点を置いてなされるべきものである。一方で発音・発声・詩の解釈といった歌唱の一つ一つの要素を取り上げるとそれぞれに課題は多く、その帰結として全体的な歌唱表現に大きな影響を与えているという実態がある。

また前提として、幼児教育の現場において教育者が持つべき素養として自然な呼吸法・美しい発声・詩の深い解釈が挙げられる。それがあって初めて幼児に適切な歌唱指導を行うことができるが、これらを必ずしも体系的に会得しきれていない教育者が存在しているというのもまた事実である。下記に童謡「かえるのうた」を例に歌唱指導、特に幼児の歌声・発声の指導に焦点を当てた指導例を取り上げたい。

### <幼児の歌声>

一般的に教育者からの適切な指導がなければ、幼児の歌声は叫ぶような声になることが多く、これは地声が強く元気に歌おうとするがゆえに発生する。これは幼児の声帯に悪影響を及ぼし、また音域も狭くなってしまうことから、歌唱表現にも悪影響を及ぼしてしまう。また、旋律の持つリズムは比較的正しく歌えているものの、音の高低に関しては不正確なまま終わってしまうことが多い。これは幼児が音の高低よりもリズムに強い関心を示すことと、総じて歌声の音域が狭いことに起因する。ただし実際に指導してみると幼児は高音域

\* 四條畷学園短期大学 非常勤講師

が出せないのではなく、出す方法を知らないという場合が多い。この場合直接発声法の指導が効果的ではあるが、幼児への指導は現実的ではないため、次のような指導が効果的である。

#### ・発声法の指導例「かえるのうた」を使って

まず初めに、原調（へ長調）の曲を使って歌う、「お母さんかえる」

次に「お姉さんかえる」が歌うイメージから、長二度上げてト長調で歌う。（原調よりやさしい表情で歌う）。その次に「お父さんかえる」が歌う。イ長調で決して叫ばず、ゆったりと歌う。最後に「赤ちゃんかえる」が歌う。お父さんかえるより1オクターブ高いイ長調で、弱く高音を十分感じて歌えるように指導する。

以上の方法を用いると高音域の頭声を楽しく覚えることができる。この場合、歌声はどの音域も弱く、細い声で指導しなければならない。

#### <発声上の注意点>

音の高低というテーマとは別に、歌唱の際は発声という問題も合わせて考慮せねばならない。つまり、言葉の発声は母音・子音問わずはっきりと正確に行わねばならないということである。特に発声上、注意しなければならないことを次にあげる。

濁音・・・濁った音

（ガ行・ザ行・ダ行・バ行）

鼻濁音・・・鼻に抜いて発音される「ガ」行音  
一般に語頭以外の「ガ」行音や、助詞の「が」「がな」などをさす。

無声音・・・調音の間、声帯の振動を伴わずに  
発せられる音「s」「p」「k」「t」

日本語の歌を歌う場合、歌の中で無声音であるかどうかを決めるのは大変困難である。作曲家が指定している場合は問題ないが、それ以外は自分で判断しなければならない。

（無声音は外国語にはない）

以上、濁音・鼻濁音・無声音は歌を歌う場合どうしても習得しなければならない。

#### <詩の解釈と表現>

最後に、歌唱には必然的に歌詞の理解・解釈という素養がなければならない。まず歌詞を朗読し、そこに書かれた内容を理解した上でそれが示す情

景・心情等を解釈していく。この工程を経て音程・リズムをとりながら歌唱という行為を洗練させていくのが基本的な方法といえよう。幼児教育で題材として選ばれることの多い童謡には物語性があるもの、単純な会話風のもの、幼児にとって卑近な例をもとにかねらの感情を表現したもの等、その種類は様々である。ここでは一例として、童謡「ロケット ばびゅーん」の詩を取り上げてみよう。

ロケット ばびゅーん

吉岡 治 作詞

ロケット ばびゅーん    ロケット ばびゅーん  
いってみたいなくものうえ  
そのまたおくのそらのおく  
つきはやっぴりきいろくて  
デコボコしているおかおかな  
ロケット    ロケットばびゅーん

ロケット ばびゅーん    ロケット ばびゅーん  
いってみようよくものうえ  
そのまたおくのそらのおく  
あおいちきゅうのむこうには  
よるでもおひさまもえている  
ロケット    ロケットばびゅーん

幼児の中には宇宙への興味や憧れを持つ子供は少なくない。そんな子供達に「ロケット ばびゅーん」は詩の内容を理解するだけでなく自らの宇宙に対する関心を持った際の体験・経験を想起させ、より叙情的な表現を可能とするきっかけとなり得るのである。

詩の解釈・朗読に必要な要素としては、主観的、客観的な事柄の羅列ではなく、それを支える内面的な心の状態を理解し、感受することが重要なのである。

童謡を表現する上では、詩に対する理解が深まると、表現力を持たせることができ、結果として歌全体に説得力が生まれる。説得力ある歌唱を行うことで、幼児に対して歌唱表現に関心を持つ契機を与えることができ、教育者によっては音楽教育を有意義なものとするのできるのである。

#### <歌唱の三年間にわたる指導例>

以下に本園での年少児、年中児、年長児の歌唱

指導での課題曲を一部紹介する。年中児、年長児は表現力と歌唱技術を伸ばすことに主眼を置いているが、これらの基礎に、上記の発声法（頭声）と詩の解釈を年少児に指導できていなければならない。

**年少児** 移調唱を中心に指導しながら、頭声を習慣づける。

- ・かえるのがっしょう（移調唱） 岡本敏明作詩、ドイツ曲
- ・とけいのうた 筒井敬介作詩、村上太郎作曲（短く切るフレーズとなめらかなフレーズをはっきり歌い分ける）
- ・ドミソのうた 淡路和子作詞、作曲（ドミソ、ドファラ、シレソを取り出して、音程を正確に指導する）
- ・こぶたぬきつねこ 山本直純作詞・作曲（正しい音程で歌うため幼児の歌う部分はピアノで弾く）
- ・はなのおくにのきしゃぼっぼ 小林純一作詩、中田喜直作（高音で伸ばす音は不安定になりやすいので、ピアノの音をよく聴いて歌うように）

他

**年中児** カノン唱など遊びを發展させながら、頭声を習慣づける。

- ・ミソドのうた 淡路和子作詩、作曲（ミソド、ファラド、レソシの和音を取り出して練習する）
- ・ふしぎなポケット まどみちお作詩、渡辺茂作曲（3番は曲の表情が変わり、テンポもゆっくりになるので注意する。また、体を動かしたり手をたたいたりする動作もふくめるとよい）
- ・かぜさんだって サトウハチロー補作芝山かおる作詩中田喜直作曲（語り調の強い曲なので表現を工夫する）
- ・自転車リンリンリン（カノン） 嶋田進吉作詩作曲

他

**年長児** 頭声で歌うことを習慣づけながら音程感覚、リズム感を身につけ、楽しいリズムや詩の表情を幼児にも理解できるよう指導する。

- ・誕生日のチャチャチャ 峯陽作詩ウイルヘルム作曲

（曲の構成、リズム等がかなり高度な曲であるが、幼児の関心は非常に高い。簡易楽器でチャチャチャのリズムを加えると一層楽しくなる）

- ・まきばのこうし 小林純一作詩川口晃作曲（2部合唱にすると最初の下声部を指導すると、上声部につられる幼児は少なくなる）
- ・やまびこコーラス 吉岡治作詩越部信義作曲（3番のカノンは難しいので、何度も斉唱で歌い、音符の長さや音程が正確に取られてからカノンにする）

他

最後に、繰り返しにはなるが幼稚園指導要領に則り、音楽をどのように指導していくかの一つの方向性として、幼児期の歌声・発声・詩の理解に対する上記手法を通じて豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする音楽教育の実現に貢献できればと思う。

引用・参考文献

- 文部科学省. 平成 20 年「幼稚園教育要領」
- 岡部裕美. 2009. 「音楽表現」におけるリトミックの実践
- 登 啓子. 2011. 「乳幼児期における歌唱活動についての一考察」
- 東 保「音楽（リズム）」チャイルド社

- 2017. 10. 25 受稿、2017. 10. 31 受理 -





